

安全データシート

改訂日:2023年7月25日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	アジピン酸クロリド
推奨用途	試験研究用
会社名	米山薬品工業株式会社
住所	大阪市中央区道修町2丁目3番11号
電話番号	(06)6231-3555(大阪・本社) (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田) (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
整理番号	AD0472

2. 危険有害性の要約

GHS分類	
物理化学的危険性	金属腐食性物質:区分1
健康に対する有害性	皮膚腐食性・刺激性:区分1 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
金属腐食のおそれ
重篤な皮膚の葉傷・眼の損傷

注意書き

【安全対策】
他の容器に移し替えないこと。
吸入しないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急処置】
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。
物的被害を防止するため流出したものを吸収すること。
直ちに医師に連絡すること。

【保管】
施錠して保管すること。

【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	アジピン酸クロリド
別名	アジポイルクロリド、塩化アジポイル
化学式	$\text{ClOC}(\text{CH}_2)_4\text{COCl}$

化学物質を特定できる一般的な番号
濃度又は濃度範囲
官報公示整理番号(化審法、安衛法)
その他

CAS RN:111-50-2
98%以上
(2)-2563
HSコード:2917.12

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
医師の診断、手当てを求める。

皮膚に付着した場合

多量の水で洗い流した後、汚染された衣服を脱がせ、再度洗い流す。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求める。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。洗浄を続ける。

飲み込んだ場合

医師の診断、手当てを受ける。

口をすすぐ。

無理に吐かせないこと。

医師の診断、手当てを受ける。

急性症状及び遅発性症状

眼、皮膚、粘膜への刺激、炎症、吐き気、嘔吐など

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤

水

特有の危険有害性

火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ容器を危険地域外へ移す。

消火を行う者の保護

作業に際しては保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触を避ける。
漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法
及び機材

漏洩場所への立ち入りを禁止し、土砂などで流出拡大防止を計り、乾燥砂で吸収し、安全な集積場に運び去る。

この物質は水と接触して分解し、有毒ガスを発生するので注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

換気のよい場所で取り扱う。

局所排気装置を設置する。

適切な保護具を着用する。

安全取扱い注意事項

蒸気を吸入したり、皮膚に付着しないように、保護手袋、保護メガネを着用してドラフト内で取り扱う。

開栓時、分解により生じた塩化水素ガスにより、容器に内圧がかかっていることがあるので注意する。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

接触回避

熱、湿気、水

衛生対策

取り扱い後は手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

密栓して湿気を避けて冷暗所に保管する。

施錠して保管する。

安全な容器包装材料

ガラス

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度(出典)

管理濃度

未設定

日本産業衛生学会

未設定

ACGIH	未設定
設備対策	取扱いについては、できるだけ密閉化を行うか、局所排気装置を使用する。作業場近くに手洗、洗眼器等の設備を設ける。
保護具	
呼吸用保護具	呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	保護手袋を着用する。
眼の保護具	ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	作業着を着用する。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体
色	無色～黄色～黄赤色
臭い	刺激臭
融点/凝固点	該当情報なし。
沸点又は初留点及び沸点範囲	95～97°C/4mmHg
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	112°C (Closed Cup)
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	該当情報なし。(水やアルコール類で激しく分解する。)
n-オクタノール/水分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	1.259g/cm ³ (25°C)
相対ガス密度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	湿気によって分解されやすい。
危険有害反応可能性	水との接触により分解し、有毒なガスを発生する。
避けるべき条件	直射日光、高温、湿気
混触危険物質	水、アルコール、酸化剤、強塩基
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、塩化水素ガス、ホスゲンガス
11. 有害性情報	
急性毒性	該当情報なし。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚を強く刺激して炎症を起こす。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	眼を強く刺激して炎症を起こす。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。
生殖細胞変異原性	該当情報なし。
発がん性	該当情報なし。
生殖毒性	該当情報なし。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	灼熱感、咳、頭痛、吐き気を起こす恐れがある。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	該当情報なし。
誤えん有害性	吸入すると気管支の炎症、浮腫を起こす恐れがある。
12. 環境影響情報	
生態毒性	該当情報なし。
残留性・分解性	該当情報なし。
生体蓄積性	該当情報なし。
土壌中の移動性	該当情報なし。

オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連番号	3265
品名(国連輸送名)	その他の腐食性物質(有機物、液体、酸性のもの)
国連分類	クラス8(腐食性物質)
容器等級	III
特別安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	153
15. 適用法令	
化学物質管理促進法	指定化学物質に該当しない
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物に該当しない
消防法	第4類 第三石油類 危険等級III 非水溶性
船舶安全法	腐食性物質
16. その他の情報	
引用文献	The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II 取扱い注意試薬ラボガイド(東京化成工業(株)編, 講談社)
	記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。